

No.41/2024

図書館文化史研究

日本図書館文化史研究会

●特別講演●

東北帝国大学附属図書館の蔵書構築 —理科大学と法文学部— 小川 知幸 1

●論文●

近代日本における公立図書館の後援団体に関する基礎的検討 仲村 拓真 33

●研究ノート●

近代公共図書館建築に関する史的考察
—関東大震災以前の諸相— 奥泉 和久 77

感化救済事業講習会と図書館
—東京四谷の西念寺の児童図書館— 須永 和之 125

1910年代の日本の公共図書館における音楽資料
—現存する所蔵目録の調査から— 山本 宗由 141

山形県における“追放”図書の実態 石黒 志保 157

●書評●

「特集 蔵書の社会史」
歴史学研究会編『歴史学研究』No.1029-1031 佐藤 裕亮 187

『塩見昇の学校図書館論 インタビューと論考』を読む
—自由を考え抜き、闘い抜いた人生を描いたオーラル・ヒストリー— 稲井 達也 197

松井健人著『教養・読書・図書館：
ヴァイマル・ナチス期ドイツの教養理念と民衆図書館』 竹之内 禎 205

ISSN 1342-6761 日外アソシエーツ発行

[特別講演]

東北帝国大学附属図書館の蔵書構築

—理科大学と法文学部—

日本図書館文化史研究会 2023 年度研究集会・総会
2023 年 9 月 9 日 盛岡地域交流センター・マリオス

おがわ ともゆき
小川 知幸
(東北大学)

1. はじめに——「帝国大学」と蔵書構築

司会の小黒浩司先生からご紹介いただきました東北大学の小川と申します。どうぞよろしくお願ひします。

この講演のお話を盛岡大学の吉植庄栄さんからいただいたときに、何か地域性のある話をしてほしいということでした。地域性のある話って何があるかなとしばらく考えまして、ちょうど昨年(2022)、東北大学は創立115周年・総合大学100周年という年を迎えて記念式典をいくつかやっておりました。明治40年(1907)に設置令が出まして、東北帝国大学は理科大学からスタートするんですね(図1)。115という数字がいかにも中途半端なんですけれども、この式典の重点は総合大学100周年というところにあります。創立の15年後、大正11年に法文学部ができる。これで理系と文系が揃ったので総合大学になったんだという、そういう意味での記念だったんです。

ところで、『洋書の話』などのご著書で知られる高野彰先生のご研究に『帝国大学図書館における蔵書構築の研究』というものがあります。この帝国大学というのは東京大学のことなんですけれども、東京大学、帝国大学は、いくつかの学校が統合されて、包摂したり、組み合わせられたりして、そこからそれぞれ持っていた蔵書が複数あると。それを払い下げることによって徐々に蔵書を整理したというようなことが書かれています。私もこのご研究を参考にさせていただいて、東北帝国大学の成り立ち、図書館蔵書の構築の最初の20年くらいのお話をしたいと考えました。東北大学の場合はどんな特徴があったのかということをお話できればと思っております。

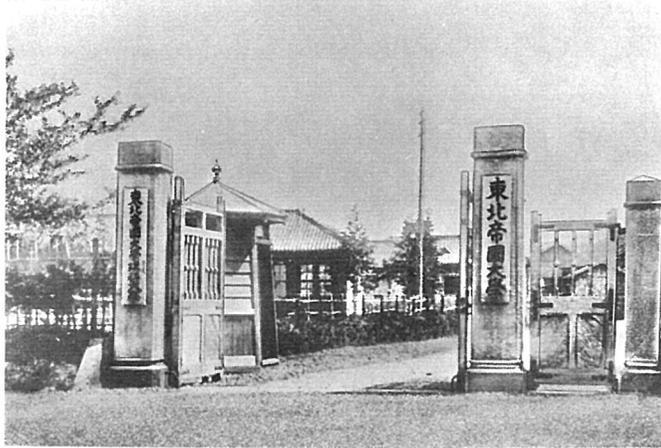


図1 東北帝国大学正門（東北大学史料館蔵）

2. 東北帝国大学——なぜ理科大学なのか

(1) 帝国大学令，日清戦争

なぜスタートが理科大学だったのかということをし少し考えてみますと、明治19年（1886）に帝国大学令が発布されます（図2）。第一次伊藤博文内閣のときです。これによってこれまでの東京大学が東京とは言わずに、帝国大学という名称に変わるわけです。帝国大学が一つしかないので東京とは付けなかったわけですが、この帝国大学令の第一条が有名な文言で、「帝国大学ハ国家須要ニ応スル学芸技芸ヲ教授シ及其蘊奥ヲ攷究スルヲ以テ目的トス」ということが書かれています。これまで大学というのは、とくに東京大学などは外国人教師を招いて、そこから西洋の知識を速やかに吸収するということが大きな目的だったんですが、初めて大学が国家の中に位置づけられるということになったわけです。その後、日本は大陸に進出しました。日清戦争が起こります。そして日本の勝利ということになったんですが、その講和条約、下関条約で日本は莫大な賠償金を手にすることになります。清国から2億両、円にすると3億1,100万円という計算です。日本のその頃の年間予算は8,000万円くらいでしたから、国家歳入の約3.3倍の莫大な賠償金を手に入れるわけですね。そこで当時の山県有朋の三大方針というものが示されていきます。軍備・殖産・教育、これを拡充していくんだと。よく言われるのはここで日本の産業革命が始まって、資本主義社会が日本の中で初めて芽生えてくる。それでこれがその原資となっていくということです。これを元手にしまして、明治30年（1897）に二番目の帝国大学の京都帝国大学が作られていきます。

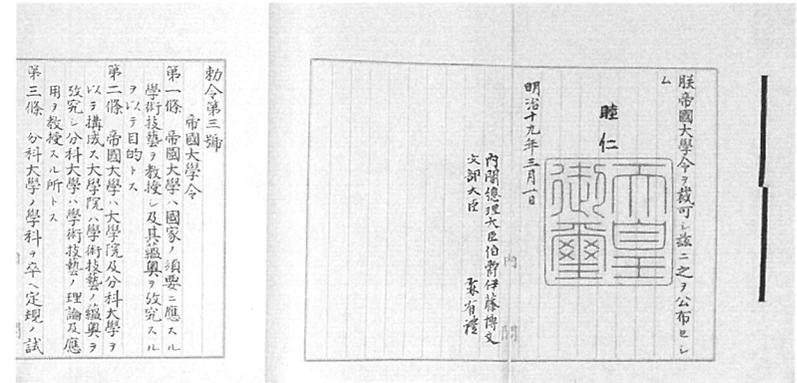


図2 帝国大学令（国立公文書館蔵）

(2) 帝国大学誘致運動

このとき帝国大学は東京帝国大学という名称になるわけですが、二つの帝国大学ができた。じゃあというわけで他の地方も自分たちのところに帝国大学を呼びたいという誘致運動が展開されてくるんです。とくに北海道と宮城、つまり札幌、仙台で綱引きする。九州は福岡、熊本、長崎、その三つの地域でそれぞれ自分のところに、ということで運動を展開していきます。

この誘致運動の中で宮城県は札幌に帝国大学を取られまいと、宮城県会で東北帝国大学を作るために寄付金を出す。当時の金額としてはかなり大きな金額で25万円を出すことを早々に決議するわけです。

帝国議会でも「東北大学設置建議案」というものが衆議院議員の尾崎行雄から出されまして、そこにどんなことが書いてあったかと言いますと、「日本に現在どれだけの大学生があるかと言ふに僅に三千五六百人……日本以下の小さい国人口の大に劣る所の英吉利・仏蘭西……でも皆二万若は三万の大学生を有つて居る」と言うんですね。ヨーロッパの列強の10分の1くらいしか大学生がいない。だから日本はもっと大学を作って大学生を増やさないといけない、というような建議案でした。そこには当時の日本の、すでに自分たちは大国であるという意識も見え隠れしているわけです。ただ、資本主義の社会が進む中で反動として不況が起こる。そして一方でロシアは南下を始めてくるんです。いよいよ日露戦争が始まるかという時期でしたので、大学に対して財政を割く余裕がないということで、ここでいったん誘致運動は沙汰済みになる。頓挫してしまう。しかしその後、日露戦争が始まって、そして終わると、このとき日本はロシアから一銭も賠償金が取れませんでした。現在のロシアのことを考えれば、そんなもの出すは

編集後記

昨年9月に盛岡にて2023年度研究集会がオンライン配信を併用して行われました。小川氏の特別講演はその成果です。また、石黒氏の研究ノートと、須永氏の研究ノートは、それぞれ研究集会と12月の2023年度第2回研究例会における発表がきっかけとなったものです。

次号以降も引き続き、会員のみならずには研究発表の成果をご投稿していただきたく願いたします。

最後になりましたが、刊行についてかわらぬご尽力をいただいている日外アソシエーツ（株）編集局のみなさまに、お礼を申し上げます。

2024年7月31日

泉山靖人（東北学院大学）
新藤 透（國學院大學）
鈴木宏宗（国立国会図書館）
三浦太郎（明治大学）
横山道子（神奈川県立深沢高等学校）

編集委員 50 音順

図書館文化史研究（年刊）

第41号 2024年9月25日発行

編集 ©日本図書館文化史研究会 〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1
明治大学司書・司書教諭課程

発行 日外アソシエーツ株式会社 〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16
電話 03 (3763) 5241 (代) 鈴中ビル大森アネックス

印刷・製本 株式会社平河工業社 表紙デザイン 津田ミナ子

ISBN 978-4-8169-3022-5